

成果と課題

どの項目においても肯定的な回答が多くありました。特に「学校に来るのが楽しいと思いながら過ごすことができた」という設問（肯定的な回答 95 %）や、自由記述の回答にも多く見られる「楽しかった」「充実していた」「学校が好きになった」といった記述から、生徒の多くが学校生活を前向きに捉え、安心して学校に通えている様子がうかがえました。しかしながら否定的な回答も少なからずあるため、引き続き少数意見にも耳を傾けながら「生徒も教職員も幸福になる学校」の実現に向けて歩みを進めていきたいと思えます。

○本年度も昨年度に引き続き、脇町幼稚園、脇町小学校と連携して PBS（ポジティブ行動支援）に取り組みました。アンケート項目3「自分や友達のよいところを見つけている」や項目4「ありがとう、ごめんなさいなどの、あったか言葉が使えている」では、それぞれ肯定的な回答が 92 %、94 %と高い結果が得られています。これは PBS で取り組んできた成果がでた結果であると受け止めており、来年度はさらに新しい試みを加えながら、引き続き PBS に取り組んでいきたいと考えています。

○項目8「相手の気持ちを考えて、まわりの人と生活することができた」や項目10「命の大切さや人権を大切にすることについて学ぶことができた」ではそれぞれ 92 %、97 %が肯定的な回答で、今年度、学校を上げて取り組んだ人権学習の成果が出ていると思えます。来年度以降も人権教育を学校教育の柱の一つとして取り組むことで、生徒が安心して学ぶことができる学校を実現させるとともに、生徒に定着しつつある人権感覚をさらに伸ばしていきたいと思えます。

○項目5「積極的にタブレット PC を使って学習する」項目6「話し合い活動やグループ学習にすすんで取り組む」では昨年度に引き続き 85 %以上が肯定的な回答が得られています。これからは効果的な話し合い活動やグループ活動について考えるとともに、授業の中でタブレット PC を使えば効果的な場面とタブレット PC を使うことが合わない場面をしっかりと見極め、学習を進めることが大切であり、タブレット PC をさらに効果的に活用する方法であると考えています。

○項目9「自分やまわりの友達が困っていることを、先生やお家の人に相談することができた」では、昨年度から少し改善されたものの否定的な回答が20%あった。長期休業日明けには必ず「困ったことがあれば相談してください」と声かけをし、生活アンケートの結果にも丁寧に対応しているが、依然として先生に相談することは生徒にとってハードルが高いのだと感じました。

○項目12「学校行事などに、友達と協力して取り組むことができた」については94%が肯定的な回答をしています。様々な学校行事に友達と協力して取り組むことで、友達や他学年の生徒とも望ましい人間関係を築くことができていると思います。来年度は生徒会を中心に学校行事のアップデートを図り、より生徒の自主性を大切にした行事に変えていきたいと考えています。

○項目11「ルールやマナーを守って生活することができた」や項目13「委員会活動や係の仕事など、自分がしなければいけないことができた」ではそれぞれ95%、96%が肯定的な回答をしています。そのことから、脇町中学校の生徒にしっかりとした規範意識や責任感が育ってきていることが感じられます。そのことを教職員が当たり前と捉えず、良いところを見つけて褒めることで、さらに自己肯定感や自己有用感を高められるようにしたいと考えています。

○項目14「部活動に意欲的に取り組んだ」では87%が肯定的に回答しています。その結果から、部活動の練習時間が少しずつ削減され、地域移行もすすんでいる中で、部活動に意欲的に取り組む生徒と指導者のけなげな姿が垣間見られます。今後、地域移行が加速し、学校から部活動が消滅するときに来ても、生徒が意欲的にスポーツや文化活動に取り組むことができる場を設定することが、生徒の健全な育成において、とても大切だと思っています。

○項目15「将来の夢や働き方について考えた」では否定的な意見が25%ありました。この結果から、学校で行っている「ふるさと学習」や「職場体験」が、自分の将来とつながっていない生徒が一定数いることが推測されます。生徒の現状や時代に合ったキャリア教育を実施しなければならないと感じています。